



2014年という歴史的な転換点に立って 今、私たち教職員に問われていること



中央執行委員長 雨松 康之

2014年が、日本の歴史的な転換点となることは間違いありません。私たち教職員が、2014年とどう向き合ったのかは、長く問われ続けることになるでしょう。

安倍政権下で日本の平和と安全に関わる重大な問題が噴出しています。1つは、原発と武器輸出です。4月4日、自公民三党の賛成で原子力協定が成立。トルコ、アラブ首長国連邦への原発輸出が可能になりました。また、武器輸出も4月1日の閣議決定により世界中どこへでも輸出が可能になっています。政府の「厳格な規定」に抵触し輸出できない国は、朝鮮戦争時の北朝鮮と湾岸戦争時のイラクのみですから武器輸出宣言です。安倍首相の外遊時には原発及び軍事関連企業が同行し安倍首相の音頭で「商談会」が設定されてきました。また、これら企業からは自民党へ多額の政治献金攻勢がかけられてきています。2つ目は、異常な中国敵視政策です。安倍首相は、外遊時及び国内での各国首脳との会談で必ず「中国脅威論」を展開します。しかも発展途上国に対しては、経済援助の名で札束をつかませ同意を迫るという露骨なやり方です。

A S E A Nや韓国が東アジアでの平和構想を相次いで発表し真剣な努力を続けている中での日本の平和戦略なき対中国軍事包囲網づくりは異常の一言です。そして3つ目は、教育への直接介入です。時の内閣の決定に教科書の記述内容を統一させる。すなわち教育を使つての「安倍内閣に奉仕する国民づくり」の強行です。

2014年、戦後の日本のあり方を変える重大な問題が浮上しています。それは、集団的自衛権の行使を認めるかどうかです。多くの教職員が敗戦時、自らの戦争協力、そして教え子を戦場に送ったことを深く反省しました。集団的自衛権の行使を認めることは、アメリカが行う戦争に必ず参戦することを意味します。私たちが戦争に協力するのかがどうか問われているのです。集団的自衛権行使に賛成であればその後の歴史に責任を、反対であれば傍観者ではなく行動を。私たち高教組は、きっぱりと集団的自衛権行使容認に反対し行動します。



新採用おめでとう！

4月3日 新採用者歓迎宣伝(社研修所)



発行所
神戸市中央区北長狭通5-2-10
兵庫県高等学校教職員組合
TEL 神戸(341)6745~6747
E-mail
honbu@hyogo-kokyoso.com
http://www.hyogo-kokyoso.com
発行人 兵庫県高等学校教
職員組合中央執行委員長
雨松 康之
編集人 梅林 真道

定価 1部 20円
半年分 120円
組合員の購読料は組合費含め徴収

今年度もよろしく お願いします

組合加入のご相談や組合
に対するご質問、全教共
済についてのご質問は、
高教組本部に気軽にお問
い合わせ下さい
TEL 078-341-6745

従組委員長 中本 典昭

前大谷委員長に代わり今年度4月から従組の委員長を引き継ぐことになりました、芦屋高校の中本です。日頃から従組の活動に対し高教組の皆様には色々ご協力頂いていることに感謝申し上げます。何分初めての経験であり不手際もあろうかと思いますが、1年間よろしくお願い致します

今、私たち技能労務職員は採用試験が中止され、徐々に定数が削減されていき、正規職員が280名を切るという状況に置かれています。そのような厳しい労働条件の中、私たちは、安心、安全で快適な教育現場を作るため欠かすことのできない役割を担っています。

私たち技能労務職員を取り巻く環境は今後益々厳しい状況になることが予想されますが、これ以上の定数削減や人件費削減など私たちにとって不利益になることを阻止し、安心して職務に専念できる職場環境を作り上げていくことが重要であると考えています。そして、今年こそ従組の最大の課題である組織の拡大を実現できるよう、組合員の皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。

全国の仲間の助け合いだからできる

全教共済の

総合共済

給付がいっぱい！

結婚10,000円 出産5,000円 結婚記念日20,000円
独身者にもクリスタル給付20,000円
療養見舞金10,000円
火災・自然災害見舞金最高10万円 お悔み事にも

しかも、掛金は退職時に全額戻るんです!!

パンフレットは、職場の分会員・本部にお問い合わせ下さい

教職員賠償責任共済もセットでどうぞ！



市高委員長 水川 景三

春を迎え、たくさんの別れを惜しむとともに、新たな出会いに心躍らせる毎日だと思います。退職・転勤の方のご苦勞と日々の営みに思いをはせるとともに、新たな仲間や生徒たちとともに職場に新たな風を呼び込むために気持ちを一新させたいと思います。教育現場のさまざまな困難な事象の根本にある問題から目をそらさせてすべてを自己責任としてしまうような教育政策とそれに無批判に追随するメディアの風潮は、多くの生徒・父母にとっても、教育の場が競争と厳罰主義による差別と選別を強いられる過酷な場所にならざるを得ない状況を生み出していると思います。生徒の心身の発達・成長を促す教育を求めて、労働条件の改善と充実、教育条件の前進にむけて仲間とともに頑張りましょう。一年間よろしくお願い致します。



障教組委員長 原田 文孝

障害児学校の現場は、多忙化の中で教職員がバラバラにされています。じっくり、ゆっくり子どものことや明日の授業について話し合う余裕がない「精神的一人暮らし」の状態です。また、大規模化の中で、学校全体が見えず、見通しをもった教育実践や学校づくりが難しい「精神的その日暮らし」の状態です。このような多忙化・大規模化の中で、子どもたちと教育、教職員を守るためには、仲間と明日を語ることが必要です。今、組合活動に求められているのは、明日を語り合う仲間づくりです。

安倍内閣は、「海外で戦争をする国」へと日本を変質させるために、海外に戦争をしに出ていく子どもと一部のエリートを育てる教育に変えようとしています。「教え子を再び戦場に送りまい」の決意が試されています。教育を政治の道具にさせてはなりません。

今年度、このような思いで委員長として障教組運動に取り組んでいきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

3.29集会に兵高教組から46名が参加

安倍「教育再生」にN○の声を!

青年部からは13名

三月二十九日の「全国学習決起集会」に兵庫高教組から四十六名が参加し「安倍『教育再生』ストップ! 憲法を守り、いかそう!」の思いで全国の仲間と交流しました。

集会の前日から青年部研修ツアーを企画し、青年部十二名を含む二十二名が参加しました。東京歴史教育者協議会の方にガイドをお願いして靖国神社及び遊就館を見学し、国会議事堂と官邸前での反原発集会を体験しました。また、当日は朝から東京大学の安田講堂等を見学後、第五福竜丸記念館を訪れ、原水爆禁止運動の歴史を学びました。集会では、安倍政権がねらう教育への政治介入と憲法改悪がセツトで進められようとしていることが明らかにされ、参加者は「国民的な共同で子どもと教育を守ろう」との思いを一つにしました。特にリレートークでの高校3年生の「私たちは学ばつとする意欲を持っています。教育の自由と平和を取り戻し、人間に豊かな学びと深い追究を保障しましょう」との力強い呼びかけに大きな拍手がわきました。

教育とは一体誰のためのものか



参加者の感想

○このような大きなイベントへの参加は初めてでしたが、会場には日本全国から大勢の先生方が集まり、シブプレヒコールもすごい迫力で、組合の絆の深さや強い団結力をひしひしと感じました。今後も組合の活動を通して、教育に関する様々なことを学びたいと思います。



○感じたことは、自分の目で見ることで、耳で聞くこと、そしてその場の雰囲気を感じるこの大切さです。靖国神社がどのような場所であるか、第五福竜丸がどのような船だったかという予備知識は知っていても、やはり直接自分の目で見ると写真や映像では感じられないものがあります。学習決起集会、そして、銀座パレードについては、ニュースでしかみたことがなかったその場に居合わせることで雰囲気というか臨場感がすごかったです。

人に伝わってほしいなと思いました。

○軍事費減らしてというが、中国の脅威にどうやって対応するんだ!? その構図がよくわかっていないので、大きな声で言うことはできなかったな。アメリカに守ってもらおうのか、アメリカにもしかたなく軍隊にはいらなきゃいけない人もいます。教員を戦場に送らないといっても、ほかの国の人ならいいの。いや違うだろう。戦争自体が反対! なんだ、というように自分のスタンスを考えるツアーでした。

○学習の到達度に評価を求めるのではなく、学ぶ機会、意欲を情操する教育を求めることが正義ではないか。高校生が問題意識を持ち勇敢に発言する姿に、これからの組合活動に対する意欲が一層鼓舞されました。今まさに現場で働いている人たちの声が少しでも政治的に反映されることを願います。

○「教育とは一体誰のためのものか」ということを考えさせられました。

教育が「管理」され、真に行き届いた教育活動を行うことが困難な時代に直面しつつあります。そのような時代背景の中で、我々青年部層の組織拡大の果たす役割の大きさを強く感じました。



2014年度執行部役員

委員長	雨松康之	本部書記局
副委員長	水川景三	六甲アイランド
〃	佐和良一	神戸特別支援
〃	永井章夫	県立尼崎
〃	小野泰司	のじぎく特別支援
〃	松岡敦之	播磨南
書記長	稲次 寛	専従(北条)
書記次長	梅林真道	専従(淡路三原)
〃	中村太朗	飾磨工業
中央執行委員	津川知久	本部書記局
〃	中本典昭	芦屋
〃	川村淑子	明石南
〃	谷 充弘	神戸聴覚特別支援
〃	笹田秀行	尼崎工業
〃	手崎道雄	伊丹北
〃	田頭憲一	西宮今津
〃	河島俊雄	伊川谷北
〃	赤松弘基	高砂
〃	上島一宏	西脇
〃	上延正博	飾磨工業
〃	栗原英之	太子
〃	栗尾 功	三田祥雲館
〃	中尾 巧	洲本実業

役員一同高教組運動の発展のために奮闘します。どうぞよろしくお願いいたします。